

後の後もどりの防止, 咀嚼筋活動の賦活化ならびに下顎位の維持を図る目的で上顎にスプリントを装着し, 経過を観察している。

#### 演題5. 我国における舌癌剖検症例の検討

—日本病理剖検輯報による1988年度の集計—

○佐藤 方信, 佐藤 泰生, 大島 忍,  
大津 匡志, 吉村 法子

岩手医科大学歯学部口腔病理学講座

我国の舌癌の実態の解明を目的に1988年に剖検された舌癌症例を日本病理剖検輯報から収集し, 種々の観点から検討した。この年度の我国の総剖検症例数(新生児, 死産児および検出中の症例は除く)は37, 287例(男23,511, 女13,750, 不明26)で, このうち悪性腫瘍は23,228例(男15,132, 女8,081, 不明15)で, 舌癌はこのうち104例(男74, 女30, 平均64.7±12.2歳)であった。この年度の舌の悪性新生物による死亡数(人口動態統計, 厚生省)から算定した舌癌症例の剖検率は16.3%であった。舌癌剖検例を年代別にみると60歳代が35例, 70歳代が25例で, これらの年代の症例が全体の57.7%を占めていた。発生部位(78例で記載なし)では舌(側)縁が10例(38.5%), 舌根(後)部が12例(46.2%), 舌下面が3例(11.5%), 舌尖(前)部が1例(3.9%)で, 舌根(後)部から発生した症例が多かったのが興味深い。左右別(88例で記載なし)には男で右側が多く, 女で左側が多かったが, 全体では左側が7例(43.8%), 右側が9例(56.2%)で右側に発生した症例がやや多かった。組織学的(7例で記載なし)には94例(96.9%)が扁平上皮癌で, その組織学的分化度別には高分化型が多かった。舌癌に他臓器の癌を合併した多重癌が28例(26.9%)あり, そのうち二重癌が25例(平均67.6±11.5歳), 三重癌が3例(平均64.7±5.4歳)であった。舌癌単独症例の平均年齢(63.7±12.4歳)と比較して多重癌症例の年齢がやや高かった。臓器転移では肺・気管・気管支(52例, 50.0%), 肝・肝内胆管(20例, 19.2%), 骨・骨髄(19例, 18.3%), 肋膜・胸腔・胸壁(18例, 17.3%), 皮膚・皮下組織(16例, 15.4%)甲状腺(14例, 13.5%)などが多く, リンパ節では頸部(30例, 28.8%), 肺・肺門(22例, 21.2%), 喉頭・食道・気管周囲(17例, 16.3%)などへ転移している症例が多かった。死因となった副病変では気管支肺炎(13例)が最も多かったが, 腫瘍の浸潤による総頸動

脈破裂(2例)や敗血症(2例)なども認められた。

#### 演題6. 右側下顎角部に発生した放線菌症の1例

○大内 治, 八木 正篤, 関 克典,  
山田 一巳, 八幡智恵子, 福田 喜安,  
石川 義人, 大屋 高德, 工藤 啓吾,  
藤岡 幸雄, 佐藤 方信\*, 鈴木 鍾美\*

岩手医科大学歯学部口腔外科学第一講座

岩手医科大学歯学部口腔病理学講座\*

放線菌症は *Actinomyces israelii* を病原菌とする特異性炎で, なかでも頭頸部領域においては顎骨周囲炎として発生するものが多く, また, 皮膚の板状硬結, 多発性小膿瘍の形成, および開口障害を伴う特有の症状を呈し, 病巣内に放線菌塊を形成するといわれている。最近, われわれは右側下顎角部に症状を呈した顎部放線菌症の1例を経験した。

症例は18歳男性で, 右側下顎角部の腫脹を主訴に1991年9月2日当科を紹介され来院した。現病歴では1991年6月4日右側下顎第三大臼歯部の疼痛および開口障害を主訴に某歯科を受診し, 右側下顎第三大臼歯の智歯周囲炎の診断のもと, 消炎処置ののち, 抜歯を受けた。その後, 症状もなく経過良好であったが, 抜歯後45日目頃より再び開口障害および右側下顎角部が極度に腫脹し, また発熱および同部の圧痛が認められたため, 1991年9月2日, 当科を紹介され, 来院した。全身所見では中等度の発熱があり, 顔貌所見では右側下顎角部に50×50mmの比較的境界明瞭な発赤および腫脹がみられ, また中央部には弾性軟の波動が触知され, 中等度の圧痛および開口障害が認められた。口腔内所見では, 炎症症状は認められず, X線的には8|相当部から下顎枝部にかけての軽度骨吸収を思わせる像が認められた。

1991年9月4日右側下顎骨周囲炎の臨床診断のもと, 膿瘍切開, ドレナージおよびCFTM-PI 600 mg/dayの経口投与を開始した。また膿汁内に小顆粒が認められたため, 放線菌症を疑い, 病理組織学的に検索したところ, Hematoxylinに濃染した多数の放線菌塊が認められた。

以上の臨床所見および病理組織学的所見より右側下顎智歯部周囲炎より発症し, 右側下顎角部に症状を呈した放線菌症と診断した。臨床症状は抗生剤投与後, 7日目までにはほぼ改善したが, 症状の消失後も, AMPC 750 mg/dayを2週間投与した。1カ月半後の

現在、再発の兆候は認められていない。

演題7. 頸部悪性リンパ腫の超音波像について

○木村 正, 小豆島正典, 鈴木美智恵,  
柳澤 泰, 中島 亨, 千田 薫,  
坂巻 公男, 柳澤 融\*

岩手医科大学歯学部歯科放射線学講座  
岩手医科大学医学部放射線医学講座\*

今回我々は、頸部腫瘤を主訴として来院した患者に対し超音波検査を施行し、この中から比較的典型像を示すとされる頸部の Malignant Lymphoma (以下 ML) について調査し、従来、鑑別が必要とされる Carcinoma の転移性リンパ節 (以下 meta.) との比較を行った。

対象症例は、頸部 ML 患者 19 例、扁平上皮癌患者 19 例で、検出されたリンパ節は ML ; 74 個, meta. ; 107 個であった。分析項目は大きさ, 形, 存在部位, 境界性, 内部エコーレベル, 均一性とした。

その結果、リンパ節の大きさが 15 mm 未満のものであるが、いずれも境界明瞭, 低エコー, 均一の Cystic pattern を示すものが多い。従って、超音波のみで両者を完全に鑑別するのは、困難のように考えられるが、しかし、現在使用している装置のみに限定して検討すると大きさ 15 mm 未満での Cystic pattern の分布は ML と meta. では異なっており、利用価値が高いと思われる。大きさが 15 mm 以上のものであるが、meta. では境界が不明瞭となり、内部エコーレベルが上昇し不均一になり、時には壊死巣を示す低エコー領域も認められるようになる。一方、ML でエコーレベルが低く、均一な超音波像が多い。そして、大きさ 50 mm 以上の Bulky mass と呼ばれる形態の large mass の形成は見られるが、壊死巣を示す様な所見は見られない。超音波検査は簡便で、リンパ節の検出率も高い、優れた検査法である。更に、装置の性能も日々向上しており、分解能に優れる 7.5 MHz のプローブが、導入されたので、今まで以上に高精度での検査が可能となっている。従って、今後もスクリーニングを含めた、頸部に対する routine な検査として、より高い有効性を持つものとする。

演題8. 国際ドイツ顎顔面外科シンポジウムに出席して  
—頸部再建に対するインプラントの応用—

○大屋 高德

岩手医科大学歯学部口腔外科学第一講座

10月7日から9日までの3日間、統一を記念して、旧東ドイツのロストック市で国際顎顔面外科シンポジウムが開催され、シンポジストとして発表する機会が与えられたと同時に、インプラントの臨床的応用基準やその基礎的な背景、さらには歯科学生への教育のあり方などが活発に論議されたので、これら要旨を報告した。

演題9. 光重合レジン重合条件の違いが細胞毒性に及ぼす影響

○小山田勇樹, 川嶋 敏宏, 久保田 稔,  
名和橙黄雄\*

岩手医科大学歯学部歯科保存学第一講座  
岩手医科大学歯学部口腔解剖学第二講座\*

[はじめに] 演者は第16回本総会において歯科材料細胞毒性試験に Flow Cytometry が応用できることを報告した。今回 Flow Cytometry による細胞毒性試験として、光重合レジンの重合条件と細胞毒性について検討したので報告する。

[材料および方法] 試験材料は、光重合型リベース材 REBARON LC (GC 社製)、レジンインレー用光重合型コンポジットレジン CLEARFIL CR INLAY (クラレ社製) を使用し、重合条件を 1. 光照射器のみ, 2. 光重合器により追加重合したもの, 3. 追加重合後 24 時間滅菌水中保管したものの 3 条件とし、培養液に浸漬し、試料とした。コントロールは培養液のみのものとした。細胞は、マウス頭蓋骨由来の MC 840106 株を使用し、各条件における細胞増殖性とセルサイクルの解析により評価した。固定は、-20℃の 70% エタノールで行い、染色は、Propidium iodide にて行なった。その後、Flow Cytometer (Ortho 社製 Spectrum III) にて核 DNA 量を測定し、このデータをもとにセルサイクルの解析をパーソナルコンピューターにて行った。なお、核 DNA 量の測定は、24 時間, 48 時間, 72 時間とし、Dean 法により解析した。

[実験結果ならびに考察] 光重合型リベース材の場合、重合条件により細胞増殖の程度は異なり、光照射器のみが最も低く、追加重合後滅菌水中保管が最もコント